

「現場発！物流の魅力発見シンポジウム」

〔開催概要〕

- 日時：平成29年6月26日（月）13：30～16：30
- 場所：横浜市鶴見区民文化センター（サルビアホール）
- 登壇者：荒木 勉（（一社）ヤマトグループ総合研究所 専務理事、東京理科大学大学院教授、上智大学名誉教授）（敬称略）
 - 大原 みれい（株日通総合研究所）
 - 岩崎 渚（株日新 港運部代理店課）
 - 柏崎 さくら（株ハナワトランスポート）
 - 清水 桂（ヤマト運輸(株)南東京主管支店）
 - 畑 久美子（三菱倉庫(株)横浜支店）
 - 石井 麻里（カーゴニュース記者）
 - 織茂 裕（東京団地冷蔵(株) 代表取締役社長）
 - 畔柳 恵美（佐川急便(株) 人事部「IT」-IT推進課長）
 - 佐久間 恒好（株商運サービス 代表取締役社長）
 - 西村 旦（株カーゴ・ジャパン 代表取締役社長）
 - 村上 敏夫（（一社）日本物流団体連合会事務局長）

【関係行政機関】

吉岡 伊佐夫（横浜公共職業安定所次長）

【国土交通省】

小幡 章博（関東運輸局交通政策部長）

- 後援：厚生労働省神奈川労働局、横浜市
- 協力：日本物流団体連合会共催

〔議事次第〕

1. 開会

2. 基調講演

「物流業界の現状」

荒木 勉（（一社）ヤマトグループ総合研究所 専務理事、東京理科大学大学院教授、上智大学名誉教授）（敬称略）

3. パネルディスカッション【第Ⅰ部】

～物流の魅力を女性目線から考える～

- ＜コーディネーター＞ 大原 みれい（株日通総合研究所）
- ＜パネリスト＞ 岩崎 渚（株日新 港運部代理店課）
柏崎 さくら（株ハナワトランスポート）
清水 桂（ヤマト運輸(株)南東京主管支店）
畑 久美子（三菱倉庫(株)横浜支店）
- ＜アドバイザー＞ 石井 麻里（カーゴニュース記者）

4. 行政からの報告

吉岡 伊佐夫（横浜公共職業安定所次長）
小幡 章博（関東運輸局交通政策部長）

5. パネルディスカッション【第Ⅱ部】

～物流業界の課題と可能性を探る～

- <コーディネーター> 荒木 勉 氏 (ヤマトグループ総合研究所専務理事)
<パネリスト> 織茂 裕 氏 (東京団地冷蔵(株) 代表取締役社長)
畔柳 恵美 氏 (佐川急便(株) 人事部 物流推進課長)
佐久間恒好 氏 (株商運サービス 代表取締役社長)
西村 旦 氏 (株カーゴ・ジャパン 代表取締役社長)
<アドバイザー> 村上 敏夫 氏 (日本物流団体連合会事務局長)

6. 閉会

[概要]

○基調講演 → [基調講演資料](#)

★荒木氏

- ・現在は第4次産業革命の時代であり、第3次産業革命の工場自動化にインターネット、AI、人工知能、IC タグ等が登場した。
- ・パレットにタグを紐付けたことによる省力化や資産管理については、ヨーロッパやアメリカでも実施している。
- ・今後は、無人の自動走行車・隊列走行等の活用も考えられる。
- ・スイスではトンネル内を無人搬送車で運送しており、無事故で美観も損ねず面白いと思う。

○パネルディスカッション【第I部】 → [パネルディスカッション\(第I部\) 資料](#)

◎一つ目のテーマとして、現場で働く若者・女性の仕事内容や入社への動機・入社後のエピソード等の紹介

★岩崎氏

- ・業務内容は船長代理として、安全管理、運航スケジュール管理等を行っている。
- ・入社試験時、女性が意外に多く、柔らかい雰囲気であり働きやすい印象を受けた。

★柏崎氏

- ・この仕事をしていて一番良かったことは、毎日配達に伺うお宅のお子さんから手書きのクリスマスカードをもらったことであり、すごく感激した。
- ・2015年、2016年の2年連続で東京都トラックドライバーコンテストの女性部門で優勝し、全国大会にも2回出場した。
- ・上記コンテストの全国大会は各都道府県から猛者が集い、学科と実技の合計得点で競い合う。まさにプロドライバーの最高峰が集う大会であり迫力がある。

★清水氏

- ・定期便のドライバーをしており支店の女性ドライバーは一人だけだが、やりづらいつも思ったことはなく、みんな和気あいあい働いている。
- ・入社はアルバイトがきっかけだが、女性の10トントラックドライバーに出会い小さな方なのにかっこいいと思い、正社員となり今に至っている。
- ・重たい米については担ぐが、女だからできないというのは言いたくない。「重いのにありがとう」と御礼を言われると、頑張ってた良かったと思う。

★畑氏

- ・業務内容は保管、荷さばき、入出庫、保管に関する各作業の調整や管理、運送の手配、貨物スペースの管理を行っている。
- ・主に医薬品関連を担当しており、関係法令に従い適切な製造管理、品質管理を厳格な管理が求められ、業務手順を順守の重要性を日々痛感している。

★石井氏

- ・物流業界の労働力不足について有効求人倍率が2.5倍以上で異例であり、運送会社の方に聞いても、求人を出しても問い合わせが来ないとの状況である。

- ・物流業界の女性の進出状況について、トラックドライバーが2.4%であり全産業の43%に比べるとかなり低く、女性管理職の割合は運輸、倉庫は4.2%とワーストである。

- ・女性が働く環境整備としてトイレ、休憩所、育児休業制度はだいぶ整備されていると思うが、女性イコール労働力不足の穴埋めという視点から抜け出せていない感じがする。

★大原氏

- ・ドライバーコンテストなど、技能のスキルアップやコンテストがあると成長を実感しやすく、仕事のやりがいに繋がり、若手ドライバーへの励みにもなる。

- ・手荷役を減らすためのパレット化も推進されてきているが、手荷役を伴わないことが多い海上コンテナ輸送や通運、ダンプカーなどでは若手・女性ドライバーも増えていきやすい。

◎二つ目のテーマとして、自社における働き方・改善策・女性ならではの壁・それを乗り越えるために努力・女性の強みや女性だからこそ活躍できたこと・今後物流業界で働く女性や若者を増やしていくために必要なこと等についての紹介

★岩崎氏

- ・重たい荷物を降ろすことはあるが、まわりが助けてくれる。

- ・職場やオフィスはきれいで物が落ちていて汚いということはない。また、女性が働きやすくするためにトイレやロッカールームも整備されている。

- ・制度面については、女性が長く働けるよう育児、介護の休暇制度や時短勤務、フレックスもある。

★柏崎氏

- ・ハナワトランスポートグループは23名の女性社員がおり定着率は100%である。

- ・女性社員のケアやコンプライアンス委員としての活動に必要と考え、メンタルヘルスマネジメントの資格を個人で取得した。社員のストレスを未然に防げるような活動を展開していきたいと思っている。

- ・私はハナワトランスポートを愛している。これから就職される方にはぜひ自分の会社を愛してほしい。肯定的に捉えればこそ、自分は何がしたいのか、どうやったら貢献できるかが明確になり、仕事そのものが楽しいと思えるはずである。

★清水氏

- ・女性ドライバーは結構いるが、トイレもきれいで女性が働きづらい所はない。昔は風呂に鍵がないことがあったが、女性が入社したことにより働きやすいように改善されている。

- ・保育所の設置や在宅勤務等の取組が進められており、女性が働きづらいことはない。

★畑氏

- ・物流はインフラの側面があり届いて当たり前とされているが、生活に密接に関係しており、とてもやりがいのある仕事だと思う。

- ・女性のほうが初対面の方ともコミュニケーションを取るのが上手であり、これは必要な情報や協力を得るために欠かせなく、今後の女性活躍にもつながっていくと思う。

- ・女性を増やすためには交通アクセスの改善、仕事と家庭の両立支援制度の充実が重要だと思う。例えば企業内託児所への公的支援など、行政の積極的な仕組み作りも同時に必要だと思う。

★石井氏

- ・女性は育児や介護を抱えている方も多く、長時間労働の是正が一番重要だと思う。

- ・女性のライフステージの三大イベントは彼氏ができる、結婚、育児であり、全てに共通する希望が定時退社できることである。

- ・物流業界は真面目でこつこつやる人が評価される気質があり、災害時には身を挺して被災地に物資を届けており、こんな誇らしい仕事は他にないと思う。

★大原氏

- ・最近の物流施設はきれいでおしゃれなところが増えており、働き手がここで働きたいと思えるような施設になってきている。今後は、このような一般オフィスに見劣りしない施設がスタンダードになっていくと思う。

- ・日本は一度仕事を中断すると、なかなか正社員に戻れない硬直的な労働市場となっており、成長の機会が与えられにくい。パート社員など契約社員から正社員になるというセカンドチャンスを与え、大切に育てることが非常に重要だと思う。女性だけではなく全ての社員が輝ける業界になってほしい。

- ・物流は国際的で世界につながる仕事であり、人々の生活を支えている。物流業界に携われることを誇りに思っている。

○行政からの報告

『ハローワークにおける人材不足対策』

★吉岡氏

- ・ハローワーク横浜を積極的に利用していただきたい。
- ・求職者が一番見る場所は、『仕事の内容』欄であるため、詳しく丁寧に内容記載していただきたい。
- ・助成金についても様々あるが必ず支給要件がある。詳細は労働局またはハローワークに聞いていただきたい。

『物流行政について』

★小幡氏

- ・厚生労働省の賃金統計では、トラックドライバーは労働時間の長い割には全産業より賃金水準が低いとなっており、取り組むべき課題だと思っている。

- ・物効法を昨年10月から改正し、モーダルシフト、共同配送等を応援しているので、ぜひご活用いただきたい。なお、関東の認定事例は、現在9件ほどある。

- ・物流に配慮した建物デザインのガイドライン等も出ており、活用していただきたい。

○パネルディスカッション【第Ⅱ部】→[パネルディスカッション（第Ⅱ部）資料](#)

◎一つ目のテーマとして、業界の現状・労働力不足対策について、取組紹介や意見の紹介

★織茂氏

- ・われわれの業界は、日本の食を支えているという大変重要な使命を帯びており、プライドを持って仕事をしている。

- ・働く環境がマイナスの世界であり、肉体的にも非常に厳しく若い人には敬遠されがちである。

- ・賃金も重要だが退職理由は人間関係がほとんどであり、職場を働きたい場、明るい職場にしていくことが重要だと思う。

- ・業界で一番大事なものは中間の現場のリーダーであり、この中間管理者の教育が非常に大事だと思う。

★畔柳氏

- ・女性はコミュニケーション能力が高く、職場やお客様との交流の雰囲気も明るくなり、女性が働きやすい職場は男性にとっても働きやすく、そして安全な職場である。

- ・時間の工夫をした取り組み事例を二つご紹介する。

- ・まず一つ目は、働き方を小分けにすることであり、朝から夕方、昼から夜間、そしてフォロー担当と3つに分けることで、残業時間の短縮につながり男性にも女性にも優し

い労働環境を構築することができた。

- ・もう一つは、トラックを切り分けることであり、シャーシと荷台を切離せるスワップ車両を導入し、女性の大型車両乗務の課題である積下ろし作業を解消できた。従来、1人で行う業務を分担することによって、さまざまな労働条件に適應することができ、短時間勤務等、雇用拡大につながっている。

★佐久間氏

- ・中小企業の代表としてお話をしたい。
- ・従業員の募集について、中小だからできるフットワークの良さを活用して地元の高校回りをしているが、子ども目線、学生目線になった分かりやすい資料が大事である。最初のうちは相手にされなかったが徐々に理解されインターンシップも行き、来春には入社希望の話もある。
- ・社内報にて御礼のお手紙があるが、ありがとうと言ってもらえる職場であり若い人たちに自分のやりがい、居場所、存在価値について発信の仕方によっては十二分に伝わると思っている。

★西村氏

- ・最近では物流危機という言葉が新聞紙上をにぎわせており、一国の首相が物流やトラックに対して直接言及しており状況が大きく変わっている。
- ・労働力不足が深刻化していながら、働く人の働き方改革、時短を求められており、その代表的な業種がトラックと建設業である。この業界の構造が似ており長時間労働、低賃金、多重下請け構造が非常にある。相違しているのは、建設業は発注主体が国や自治体で約5割ありコントロールが可能だが、トラックは相手が荷主であり行政のコントロールが利かない

★村上氏

- ・物流を人体として考えると生活の血液であり、今その中身が変質しており、血液を送り出す心臓が労働力になるが非常に弱ってきている。
- ・血液や心臓を鍛えようとしているが、全てを司る脳を変えないと問題は解決しない。
- ・心臓である労働力は2016年から2036年の20年間で約1400万人減少すると言われており、1週間で1.2万人の働き手が毎週いなくなる危機的な状況と思っている。

★荒木氏

- ・労働力不足というのはドライバー不足であり、物流業界を知らない若い人が多い。

◎二つ目のテーマとして、業界の魅力、今後の対応策について、取組紹介や意見の紹介

★織茂氏

- ・トラック業界と同じで人手不足と時間外労働問題は深刻である。人手不足による負担増加でさらに辞めていく負のスパイラルに陥っている。
- ・冷蔵倉庫の貨物は冷凍品が主なので放置ができず作業効率が悪くなり、遅延の原因となっている。
- ・人手不足対策は荷主、運送会社の連携だけでは無く、行政も一緒になって取り組む事が非常に重要だと思う。

★畔柳氏

- ・働き方について、女性が働ける場所があることが会社としても成長につながり、職場環境の改善に大きくつながっている。
- ・仕事内容は細分化、システム化が必要だが、運送に関しては人と人とのコミュニケーションが大事であり、システム化は難しい。
- ・物流業界をみんなのあこがれの仕事、職場にしていきたい。

★佐久間氏

- ・東京都トラック協会では一生懸命、上を目指している社長が多いと思う。

- ・中小企業はトップダウンで会社を動かし、スピード感が持てるのが武器である。

★西村氏

- ・技術の進歩などにより「運び方」は変わってくるが、「運ぶという行為」自体はなくなる。そこが魅力だと思う。ただ、物流は「ちゃんとできて当たり前」「間違いがなくて当たり前」で、たった1回の誤出荷すら許されない。「減点方式」ではなく「加点方式」の評価の仕組みを採り入れていくべきだ。
- ・業界5割のシェアある会社が価格決定権を持ってないのは、宅配と物流だけと言われるが今、状況を変えるチャンスだと思っている。

★村上氏

- ・物流連では大学生を集めてインターンシップを行っている。その中で初日に、厳しい時間外労働とかのイメージを持っていた学生が、最終日には物流が日本産業とか生活の底辺を支えていることを意識するようになる。
- ・新卒者を辞めさせない、維持することについては、物流が世の中を支えていることをもっと理解させる。
- ・業界の魅力、今後の対応策については、一つめは職場環境を良くする。ハード面も大事だが、働く職場でのハラスメントは絶対いけない。経営者の責任だが理念をはっきりすることが大事だと思う。
- ・二つ目は働き方で、テレワーク、在宅勤務制度などの多様化が必要だと思う。
- ・三つ目は人材教育で、やりがいや自覚を若い働き手に持たせることが大事だと思う。
- ・まずは雇った人を辞めさせないことに力を入れていただきたいと思う。

★荒木氏

- ・物流は絶対なくならないものであり、消費者に直接ものを渡すのがドライバーである。
- ・物流の現場は手作業が多く、特に宅配業界は手作業が多い。
- ・現在はスマホ、インターネットもあり、今後はこういうものを使い業界を活性化していく。
- ・女性の問題では現在、子育てをする、出産をする、そういう環境にはないのに、欧米と同じように活躍させるのは無理であり、みんなで訴えていくことが必要だと思う。



持永局長開会挨拶



講演する荒木先生



パネリストの方々【第Ⅰ部】



普段の仕事ぶりを紹介【第Ⅰ部】



コメントする大原コーディネーター（右）と石井アドバイザー（左）【第Ⅰ部】



ディスカッションの様子【第Ⅰ部】



パネリストの方々【第Ⅱ部】



取組事例紹介【第Ⅱ部】



荒木コーディネーター（右）
と村上アドバイザー（左）【第Ⅱ部】



ディスカッションの様子【第Ⅱ部】



盛況なシンポジウム会場



河村次長閉会挨拶